

平成20年7月13日(日) 11時30分より彩の国すこやかプラザ2階会議室において、平成20年度埼玉摂食・嚥下研究会第4階総会が開催さ

第4回総会

第4回総演会 第7回講演会 報告

埼玉摂食・嚥下研究会だより

「高齢化時代のセーフティ・ライフを目指して」



吉原忠男会長

研究会副会長の井坂義昭埼玉県歯科医師会会長の開会に始まり、研究会会長の吉原忠男埼玉県医師会会長のご挨拶がありました。そして議長・副議長の選任が行われ、議長には湯澤俊理事が副議長には向田良子理事が就かれ議事が進行されました。



井坂義昭副会長

引き続き、議案の上程・説明が演野理事よりなされ(詳細4画)、すべて賛成多数にて承認され、第4回総会は滞り無く終了となりました。今年度は年2回の講演会と年1回の症例検討会に加えて、摂食・嚥下

障害の普及・啓発ができる普及啓発資料(リーフレット)を作成し、そのための作業委員会を開催するということとです。

予定されている講演会・症例検討会は次のとおりです。

1 講演会・症例検討会の開催

(1) 第7回講演会
平成20年7月13日(日) 13時〜16時 彩の国すこやかプラザ

(2) 第4回症例検討会
平成20年10月19日(日) 10時〜13時 大宮国際調理師専門学校

(3) 第8回講演会
平成21年3月1日(日) 13時〜16時 埼玉県民健康センター大ホール

(4) 摂食・嚥下研究会だより、ホームページの更新を実施する。

(5) 摂食嚥下障害に関するリーフレットを作成する。



展示会風景

第7回講演会

平成20年7月13日(日) 13時より第4回総会に引き続き、彩の国すこやかプラザ2階セミナーホールにおいて埼玉摂食・嚥下研究会第7回講演会が開催されました。

演野理事のご挨拶、奥村理事の司会にて講演会が開催されました。講演は、「臨床生理学から見る咀嚼嚥下臨床〜在宅・施設での対応を3つのポイントを考える〜」と題して行われ、参加者は多職種にわたり、250名を超えました。

vol.10
発行日 平成20年9月1日
発行者 埼玉摂食・嚥下研究会
会長 吉原 忠男
事務局
埼玉県浦和区針ヶ谷4-2-65
彩の国すこやかプラザ5F
(社) 埼玉県歯科医師会内
TEL 048-829-2323

TOUCH 無限責任中間法人 TOUCH <http://d.hatena.ne.jp/DocTak/>

TOUCH は、施設・病院の職員様の口腔ケア・摂食嚥下機能の支援技能の向上を通じて、利用者様の QOL と施設・病院の質の向上を支援します。

- ・利用者様の摂食嚥下機能の評価にもとづく口腔リハビリテーションプログラムの作成、技術講習。
- ・職員試験 (TOUCH 口腔ケア検定) を通じて、職員様の口腔ケアの技量や知識の向上の支援。
- ・施設評価 (TOUCH 施設検定) により、施設・病院の食支援の取り組みの評価と指導。

代表社員 舘村 卓 大阪府池田市伏尾台 5-8-3 TEL072-752-8906 FAX072-747-3178

「臨床生理学から見る咀嚼嚥下臨床」

在宅・施設での対応を3つのポイントを考える
大阪大学大学院歯学研究所
高次脳口腔機能学講座准教授

館村 卓先生



館村 卓先生

■講師紹介 大阪大学大学院歯学研究所高次脳口腔機能学講座准教授の館村卓先生で、摂食嚥下機能や音声言語機能等の口腔機能の回復を通じて、要介護児・者の社会参加を支援する医療と研究に取り組んでおられる「無限責任中間法人TOUCH」の代表社員も務められております。

■講演は、「臨床生理学から見る咀嚼嚥下臨床」在宅・施設での対応を3つのポイントを考える」と題して行われました。

- 1 呼吸路の確保
- 2 口腔咽頭機能の賦活

3 食物調整

まず興味をそそられたテーマが「なぜ人は嚥下障害をおこすのか」という根本的な問題で、馬の頭頸部の解剖図と人のそれを比較して、人が直立二足歩行を獲得したために顔面が90度腹側に変位したことがその原因であると解説し、人は直立二足歩行を獲得して前足の自由を得、自由になった前足を手として巧みに操ることで道具を発明し、道具を使い文明を築き上げましたが、鼻腔と気管が分離し長い咽頭部が形成されたためにその代償として鼻咽腔・喉頭の閉鎖不全による誤嚥の危険性を背負い込むことになったとのこと。

年齢と共に筋力や反射機能は低下するので、いつまでも美味しく口から食事を楽しむことができないように、嚥下機能を落とさない方策を熟知しておくことは重要で、正常な嚥下機能と障害を知っておく必要があります。食物を口唇でとらえ(捕食)、前歯で咬みきり・臼歯ですり潰し(咀嚼)、唾液と混ぜて飲み込める状態にする(食塊形成)時期が準備期で、この時期の障害には歯科治療が大きく関与できる。義歯が入っていない状況では、食物を咀嚼できず、また口腔容積が減少することで舌の運動領域は低下して、廃用性変化を生じることや舌の運動機能が低下し、唾液の分泌量が落ちて食塊形成ができ

ず、うまく飲み込めません。自分の歯を大切にすること、また不幸にして歯を失っても義歯を入れて咀嚼できるようにしておくことは、咀嚼嚥下機能を維持する上で非常に重要なことです。唾液と混ざり合い、一塊として飲み込めるようになった食塊が、のどの奥に運ばれて嚥下反射が起ころるまでの時期を口腔期と呼び、このとき、食塊がスムーズに咽頭に移動するためには、舌と口蓋による接触圧が必要となります。前口蓋弓に食塊が接触すると、軟口蓋が上がつて鼻咽腔が閉鎖されなければなりません。舌の挙上運動が障害されているときには嚥下補助装置(PAP)を作成し、舌と口蓋の接触圧を増強し、また軟口蓋の動きが悪いときには専門医の診断のもとに軟口蓋挙上装置(DDU)を作成し、鼻咽腔閉鎖を助けることもあります。咽頭まで運ばれた食塊が食道入口部まで運ばれる段階を咽頭期と呼びます。この段階での食塊の移送には、咽頭に陰圧が形成される必要があります。そのためには口腔期での舌と口蓋の開鎖、鼻咽腔閉鎖、口唇閉鎖が重要な要素です。咽頭期



からは反射運動ですが、このように咽頭期の問題は準備期・口腔期における問題によって生じていることが多く、軟口蓋・喉頭・喉頭蓋の動きを妨げないような姿勢をとらせることが大切になります。

誤嚥防止姿勢の基本は、(A)うなづき(B)姿勢保持(C)足底接地です。もし身体の拘縮があり、端座位・足底接地・前屈位という姿勢を取れないときには、頭頸部・体幹・下肢の角度を維持してベッドを倒し、足底は接地できないので、しっかりと段ボール箱などを足底からベッドの脚側の板の間に挿入して踏ん張れるようにします。

また、嚥下障害のリハビリには、刻み食は固形物と水分が分離し固形物が残留しブランクとして残り誤嚥性肺炎の原因になりやすく、また「ごろみ」をつければ良いと安易に考えがちですが、メーカーにより粘度がまちまちなので、レシピを盲信せず実態に即しているかどうかを確かめてから使用するよう心がけなければなりません。

世界約50カ国で愛用されているEBMに基づいた口腔ケア

口腔乾燥・・・biotène® バイオティーン

- +天然にも含まれる天然酵素
- +ラクトフェリン
- +保湿・潤滑成分
- +キシリトール

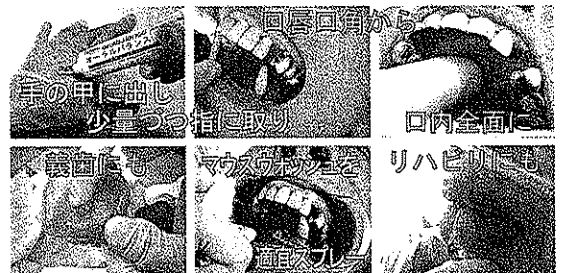
ORAL BALANCE バイオティーン オーラルバランス

ORAL BALANCE バイオティーン オーラルバランス

MOUTHWASH バイオティーン マウスウォッシュ

SUPERSOFT TOOTHBRUSH バイオティーン スーパーソフト歯ブラシ

TOOTH PASTE バイオティーン ツースペースト



21世紀の健康のキーワードは・・・唾液!!

製造販売元 ティーアンドケー株式会社 Laclede, Inc. ラクリード社(米国製)
東京都中央区日本橋堀留町1-5-7 TEL: 03-5640-0233 FAX: 03-5640-0232
URL: www.biotene-lk.co.jp E-Mail: info@biotene-lk.co.jp

嚥下障害の程度はどれくらいか、舌の運動機能はどれくらい障害されているかで、とろみの付け方は変わります。舌は前後・上下・左右の3軸方向に動き、全方向に舌が動けるとき、固形物の経口摂取が可能となる。前後運動のみでは吸啜運動しできない。上下方向の動きまでしかできないケースでは、舌を上顎に押しつけて食塊を押しつぶし丸飲みすることになります。食物の温度も重要なファクターである。

摂食嚥下障害の原因疾患

	神経筋疾患	非神経筋疾患	
		非器質的	器質的
成人	脳血管性疾患 神経筋障害	認知症	口瞤頭低 食道癌
	脳血管性認知症	遷延性意識障害 (植物症)	嚥下器・ 消化器疾患
小児	小児神経筋障害 小児神経腫瘍術後	発達障害	

「暖かいものは暖かいうちに、冷たいものは冷たいままで」食べて頂くのがいいことは誰でも分かっているつもりですが、実際に体温と同じ温度のものは刺激が低いために認知されにくく、嚥下反射を促せずに誤嚥を惹起する危険性があります。食物を美味しく感じる温度は、体温±15〜20度とされていますが、誤嚥を防ぐ意味からも食物の温度には気を配る必要があります。また、スプーン一杯にどれくらいの量の食物をのせるか、食事の一口量は大切な問題である。多すぎると1回では飲み込めず、口の中に残ることになる。また少なすぎると反射を促す刺激としては小さすぎるので、嚥下反射そのものが起こりません。ちょうど1回で飲み込めて、

残量しない量を試行錯誤して探したす必要があります。かねてからの概念としては、デンタルブラークや歯石を除去して、むし歯や歯周病を防ぐと共に、清潔な口腔を作ることでしたが、摂食・嚥下障害がクローズアップされてきてからは、咀嚼嚥下機能・言語機能・呼吸機能など口腔が有する諸機能の維持改善をも含める広い概念に変わってきました。歯ブラシによるマッサージとストレッチを行うと、刺激性唾液の分泌が昂進し、食塊形成が容易になります。事前のブラッシングで消化器官系が目覚め、食事に対する身体の受け入れ態勢が整います。更に食前に口腔内を清潔にしておくこと、たとえ誤嚥したとしても肺炎にまで至ることはありません。デンタルブラークは、歯だけではなく、口やのどに挿入されたあらゆるものに付着するので、経鼻カテーテルや気管カニューレの表面もブラーク染め出し液で真っ赤に染まります。これを防ぐには徹底的な口腔ケアが重要です。

今回の講演は、在宅・施設は勿論のこと、日々の臨床でもとても役立つ内容でした。
(記事 埼玉摂食・嚥下研究会理事 藤野悦男)

今回の講演は、在宅・施設は勿論のこと、日々の臨床でもとても役立つ内容でした。

埼玉県摂食・嚥下研究会 役員名簿

(20.7.13現在・敬称略)

会長	吉原 忠男	埼玉県医師会長	理事	安井 利一	明海大学学長
副会長	井坂 義昭	埼玉県歯科医師会長	理事	清水 良昭	明海大学歯学部社会健康科学講座障害者歯科准教授
副会長	小嶋 富雄	埼玉県薬剤師会長	理事	鯉淵 肇	埼玉県薬剤師会副会長
副会長	佐藤 進	埼玉県立大学学長	理事	膳亀 昭三	埼玉県薬剤師会常務理事
専務理事	大渡 廣信	埼玉県口腔保健センター運営管理小委員会委員	理事	高久 悟	埼玉県立大学健康開発科教授
理事	濱野 英美	埼玉県歯科医師会理事	理事	向田 良子	埼玉県看護協会会長
(総務・会計)	齋藤 秀子	埼玉県歯科医師会学校歯科部副部長	理事	中島 悦子	埼玉県訪問看護ステーション連絡協議会長
理事	山 博	埼玉県医師会常任理事	理事	丸山 恵子	埼玉県歯科衛生士会長
理事	湯瀬 俊	埼玉県医師会理事、埼玉県医師会介護保険・在宅医療等推進委員会委員長	理事	千葉 道子	埼玉県介護支援専門員協会理事長
理事	小川 郁男	埼玉県医師会理事、埼玉県老人保健施設協会会長・埼玉県医師会介護保険・在宅医療等推進委員会委員、埼玉県耳鼻咽喉科医会理事	理事	清水 充子	埼玉県総合リハビリテーションセンター言語聴覚科長
理事	松本 郷	埼玉県医師会内科医会副会長	理事	内田 淳	社会福祉事業団嵐山郷歯科診療担当医長
理事	棚橋 紀夫	埼玉医科大学神経内科教授	理事	川崎つま子	小川赤十字病院看護部長
			理事	奥村 元彦	埼玉県歯科医師会地域保健部副部長
			理事	藤野 悦男	埼玉県歯科医師会地域保健部副部長
			理事	中里 義博	埼玉県歯科医師会会員
			監事	丸木 雄一	埼玉県医師会理事、埼玉県医師会介護保険・在宅医療等推進委員会副委員長
			監事	下山 定夫	埼玉県歯科医師会専務理事

埼玉県摂食・嚥下研究会会員数 242名・38団体(2008.3月末現在) ホームページ <http://www.ssek.net/>

『摂食・嚥下』関連書籍のご案内

摂食・嚥下メカニズム UPDATE

K. Corbin-Lewis・J.M. Liss・K.L. Sciortino 著/金子芳洋 訳
B5判 284ページ 2006年9月
定価 5,670円(税込) 医歯薬出版

高齢者のQOLを高める 食介護論

手嶋登志子 著/市川文裕 執筆協力
B5判 128ページ 2006年7月29日
定価 2,100円(税込) 日本医療企画

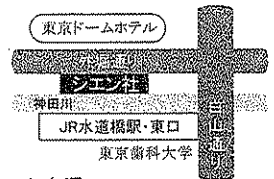
CD-ROM 摂食・嚥下のメカニズム

井出吉信・山田好秋 監修
CD-ROM Windows/Macintosh
定価 4,200円(税込) 医歯薬出版

美味しく食べよう お口の体操1・2・3

兵庫県歯科衛生士会・播磨支部 制作
DVD-VIDEO 約10分 2006年
定価 1,500円(税込) ミュージックスペース

歯学書専門書店



●交通
総武線 水道橋駅 徒歩2分
三田線 水道橋駅 徒歩2分



デンタルブックセンター
株式会社 SHIEN

●営業時間 平日 9時～19時 / 土日祝日 10時～18時 ※年末年始を除き無休 <http://www.shien.co.jp>
〒112-0004 東京都文京区後楽1-1-10 日本生命水道橋ビル1F TEL 03-3816-7818 FAX 03-3818-0837

平成20年度 総会資料要旨

■第1号議案 平成19年度 埼玉県摂食・嚥下研究会事業報告

1. 会員数：正会員242名 賛助会員 38団体 (71口)
2. 理事会及び総会
平成19年7月8日(日) 彩の国すこやかプラザ
3. 講演会及び症例検討会
◇第5回講演会
平成19年7月8日(日) 彩の国すこやかプラザ
演題：脳神経疾患による摂食嚥下障害の対応
ー歯科と内科を含むチーム医療ー
講師：東京医科歯科大学医学部臨床教育研修センター
神経内科准教授 山脇正永
演題：介護予防における口腔機能向上
講師：埼玉県歯科衛生士会会員 木村重子
◇第3回症例検討会
平成19年11月25日(日) 国際調理師専門学校

- 演題：高齢者の安心・安全な摂食・嚥下方法
～調理法・食事介護・食後のケアを中心に～
講師：埼玉総合リハビリテーションセンター言語聴覚科長 清水充子
社会福祉事業団嵐山郷栄養課 依田清子
埼玉県歯科衛生士会会員 木村重子
- ◇第6回講演会
平成20年3月2日(日) 埼玉県県民健康センター
演題：高齢者の薬剤使用について
講師：埼玉県薬剤師会常務理事 鯉淵 肇
演題：不顕性誤嚥による肺炎は予防可能
講師：東京大学医学部附属病院老年病科講師 寺本信嗣
4. その他：
摂食・嚥下研究会だよりの発行(6号・7号・8号)
ホームページの作成・更新

■第2号議案 平成19年度 埼玉県摂食・嚥下研究会収支決算書

収入の部 (単位：円)

項目	19年度予算額	19年度決算額	差異
入会金収入	25,000	45,000	△20,000
会費収入	1,200,000	1,442,000	△242,000
事業収入	540,000	414,000	126,000
寄付金収入	0	0	0
雑収入	0	4,071	△4,071
当年度合計	1,765,000	1,905,071	△140,071
繰越金	1,084,964	1,084,964	0
収入合計	2,849,964	2,990,035	△140,071

支出の部 (単位：円)

項目	19年度予算額	19年度決算額	差異
事業費	2,649,964	1,802,214	847,750
(1)理事会・総会	202,400	114,454	87,946
(2)講演会費	1,750,000	691,289	1,058,711
(3)広報費	697,564	996,471	△298,907
予備費	200,000	0	200,000
支出合計	2,849,964	1,802,214	1,047,750
次年度繰越		1,187,821	

■第3号議案 平成20年度 埼玉県摂食・嚥下研究会事業計画

本格的な高齢社会を迎え、高齢者が最期まで元気で、健康な生活を送ることが切実な課題となっています。「食べる」ことに障害を持つ高齢者や障害児(者)が大勢いるにもかかわらず、その取組みが遅れています。

埼玉県摂食・嚥下研究会は、摂食・嚥下障害の諸問題や啓発指導、リハビリテーションなど目的を達成するために以下のとおり事業を行う。

- 1 講演会・症例検討会の開催
(1) 第7回講演会
平成20年7月13日(日) 彩の国すこやかプラザ
演題：臨床口腔生理学かた見る咀嚼嚥下臨床
～在宅・施設での対応を3つのポイントで考える～
講師：大阪大学大学院歯科学研究科高次脳口腔機能学講座准教授 館村 卓
- (2) 第4回症例検討会

- 平成20年10月19日(日) 大宮国際調理師専門学校
演題：(仮題)患者のQOL向上を目指した安全な食事形態
ー症例検討より学ぶー
講師：県西部浜松医療センター診察支援部栄養科副科長・管理栄養士 NST専門療法士・病態栄養専門士・健康運動指導士 岡本康子
- (3) 第8回講演会
平成21年3月1日(日) 埼玉県県民健康センター大ホール
演題・講師 未定
- 2 摂食・嚥下研究会だより、ホームページの更新
・埼玉県摂食・嚥下研究会だよりを発行(年3回)
・ホームページの更新(<http://www.ssek.net/>)
 - 3 摂食嚥下障害に関するリーフレットを作成

■第4号議案 平成20年度 埼玉県摂食・嚥下研究会収支予算書

収入の部 (単位：円)

項目	20年度予算額	19年度予算額	差異
入会金収入	30,000	25,000	5,000
会費収入	1,200,000	1,200,000	0
事業収入	480,000	540,000	△60,000
寄付金収入	0	0	0
雑収入	0	0	0
当年度合計	1,710,000	1,765,000	△55,000
繰越金	1,187,821	1,084,964	102,857
収入合計	2,897,821	2,849,964	47,857

支出の部 (単位：円)

項目	20年度予算額	19年度予算額	差異
事業費	2,797,821	2,649,964	147,857
(1)理事会・総会	202,400	202,400	0
(2)講演会費	1,780,000	1,750,000	30,000
(3)広報費	815,421	775,421	40,000
予備費	100,000	200,000	△100,000
支出合計	2,897,821	2,849,964	47,857

埼玉県摂食・嚥下研究会のご案内

「摂食・嚥下」ってなんだろう？

「摂食・嚥下研究会」ってどんなことするの？

疑問のある方、ご興味のある方、

是非、一緒に勉強しませんか？

(1) 摂食・嚥下(せっしょく・えんげ)の意味について

「摂食・嚥下」とは、簡単に言いますと「口に取り込み、飲み込んで、胃に入るまでの過程」です。私たちが普段、行っている行為ですが、加齢や病気によってうまく機能しなくなることがあります。

ご家族、職場の方の「楽しく食べて長生きできる」生き方を支えるために、また、ご自身のためにも一緒に勉強しましょう!!

(2) 活動内容について

参加者の方に、「摂食・嚥下」の理解を深めていただくため、多職種の講師をお招きして、年2回の講演会と年1回の症例検討会を開催しております。また、年3回の広報紙も発行しております。

詳しくは摂食・嚥下研究会のホームページをご覧ください!!

「埼玉県摂食・嚥下研究会」<http://www.ssek.net/>

(3) 入会について

初年度は、4,000円(入会金1,000円+年会費3,000円)です。

次年度から、年会費の3,000円を納めていただきます。

入会申込書をホームページからダウンロードして、必要事項をご記入いただき、事務局にFAXで送ってください。

皆様のご入会をお待ちしております!!

問合せ：埼玉県摂食・嚥下研究会事務局

〒330-0075

埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ

埼玉県歯科医師会事務局内

TEL 048-829-2323 FAX 048-829-2376